

平成 17 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 1 9	学校名	茨城県立協和養護学校										課程	全日制		学校長名	高野 恭一			
教頭名	立原 雅子												主査兼事務長名	坂寄 節						
教職員数	教諭	5	7	養護教諭	2	常勤講師	1	2	非常勤講師	2	実習教諭、実習講師、実習助手	2	事務職員	4	技術職員等	5	計	8	4	
児童生徒数	学部	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	小学部	6	1	4	4	6	0	8	0	3	0	10	1	3	7	6	1		2	
	中学部	8	3	7	5	6	4							2	1	1	2	9		
高等部	16	5	11	3	11	6							3	8	1	4	9			

2 目指す学校像

児童生徒の実態を的確に捉え、一人一人のニーズを明確にしきめ細かい教育を推進し信頼と活力を生む学校づくりを实践する。
 地域における特別支援教育のセンター的役割を果たすとともに、児童生徒が地域の中で「豊かな心をはぐくむ」ことができる生活の充実と社会性の育成を目指した教育を推進する。
 また、保護者・施設・各関係諸機関等との連携を密にし、一環した協力体制による教育活動を展開する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
教 務	研究主題「豊かな心をはぐくむカリキュラムの改善」の研究協力校(17.18年度)としての校内研究体制づくりを進めている。また、さわやかマナーアップ運動の年間活動計画の作成・実践に向けて、各学部・係で共通理解を図って活動を推進している。 授業参観日を年間5回実施しているが、3回は教育月間に計画し「2日間の学校自由参観日」を設けている。授業参観の際には、保護者にアンケートを実施し授業の評価及び感想や要望等を吸い上げ、学習活動や授業の指導場面、教材教具等の内容については研究し、教育活動に反映させる工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の交流団体や地域の小学校との交流を推進し、楽しい学校づくりを目指す。 児童生徒各自ができることから、マナーの向上へ向けた活動を実施する。 保護者及び外部からの評価と意見・要望等を反映させた単元の指導や教育活動に反映させ特色ある開かれた学校づくりの推進。

		児童生徒についての対応を，医療と連携して推進する。
保 健	(給食) 手洗い，消毒，衛生的な服装での配膳を励行し伝染病，食中毒の予防をしている。また，給食室は学期ごとに大掃除を実施し，食後はその都度掃除を行っている。	・衛生管理の徹底を図る。
	(安全・防災) 月1回の安全点検の実施。火災・地震・不審者対応の避難訓練を通し，災害時の対策を進めている。	・様々な状況を想定した，実践に即したマニュアルを検討する。
	(環境美化) 月1回の「全校美化日」・「職員清掃日」，月3回の「職員清掃日」を設け，全校あげて環境美化に取り組んでいる。高等部作業班と連携をとり花壇，プランターにたくさんの花を栽培し校内の美化に取り組んでいる。	・児童生徒及び職員の環境美化への意識の高揚をどのように図っていくか。
渉 外	地区PTA活動3年目を迎え，地区間の情報交換会（地区懇談会年3回，地区幹事会年3回）を開催し，より充実したPTA活動ができるように努めている。	・PTA活動においての情報交換会（常任委員会，地区幹事会・懇談会等）をとおり，円滑な活動の支援に努める。
事 務	経費の削減に努めている。	・経費のガイドラインを整理し，より円滑な執行体制に努める。
保護者・施設との連携	家庭訪問（年1回），個別面談（年3回），学年懇談（年4回）学校・施設懇談会（年2回）をもち，保護者や各関係者と意見交換をすることで共通理解を図っている。	・児童生徒の実践・評価をさらに明確にする。

4 中期的目標

- 1 一人一人のニーズや発達段階を踏まえ，弾力的な教育課程を編成し展開する。
- 2 地域における特別支援教育のセンター的役割を果たすことができるコーディネーターの養成と支援体制の充実に努める。
- 3 家庭や労働・福祉・医療等関係諸機関と連携を図るためのネットワークを構築し，適正な進路の実現に努める。
- 4 個別の教育支援計画（移行支援計画）を活用し，在学中から卒業後の支援をさらに推進する。

5 本年度の重点目標

重点目標	具体的目標	達成状況
1 豊かな心をはぐくむカリキュラムの改善についての基本的な方策の研究。	<ul style="list-style-type: none"> ・「さわやかマナーアップ運動」と連携し、心の教育の一層の充実を図る。 ・校内体制の整備「研究推進委員会の設置」。 ・豊かな心をはぐくむカリキュラムの改善に関する意識・実態調査を実施する。 ・先進校を視察し、得た情報を研究に生かす。 ・「交流活動事業」との関連を図る。 ・個に応じた、余暇活動への支援を推進する。 	
2 地域をサポートする特別支援教育のセンター的機能の充実。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域及び保育園(所)・幼稚園・小・中学校・各関係機関に対し特別支援教育への理解啓発を継続。 ・小・中学校等からの相談に応じ、指導・助言等を行うなどのセンター的役割の充実。 ・地域ネットワークの活用。 	
3 各機関との連携を図り、適正な教育活動・進路指導の推進。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域・各関係機関を含めた関係者と連携し、個別の教育支援計画を活用した、教育活動の充実に努める。 ・進路相談を早期に実施し目標達成に努める。個別移行支援計画を活用し、卒業学年の進路指導を充実させる。 ・計画的な進路指導、離職・転職に対応できるシステムの充実に努める。 	
4 教育的支援の専門性の向上。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域・小・中学校などが求める教育的ニーズを把握する。 ・校外研修(伝達研修)、校内研修(グループを編成し指導法や教材教具、事例の研究)の充実。 	